

107. 聴覚障害のあるアルコール依存症者のグループ検討会

聴覚障害のあるアルコール症者のグループ検討会 代表 稲 淳子

概要

本研究では、聴覚障害のある人同士で手話を言語とした依存症からの回復を目指すグループの設立を目標とし、そのためには聴覚障害とアルコール依存症を併存することによる影響や支援技術を、それぞれの支援者が互いに学びあいながらグループ設立に向けた準備を行うとともに、対象者の発見や治療ギャップの解消、支援人材の育成のための活動に取り組むこととした。定期的な学習会や啓発のための研修会を開催し、支援者ガイドを作成した。

活動の結果、聴覚障害支援者とアルコール依存症支援者の双方に、情報不足と学ぶ機会の欠如があり、生活背景の理解や情報保障の不十分さが共有された。支援者同士が互いの専門性を学び合うことが医療につながりにくいという課題の改善につながり、作成した支援ガイドも有用と評価された。

一方で、地域外への啓発不足や手話学習・資料改善のニーズ、活動の持続可能性などが今後の課題であり、支援者ネットワークを広げつつグループ設立に向けた研究が求められている。

こうした事業を行うにあたり必要な資金や会場の確保などに苦慮していたところ、三菱財団社会福祉研究助成を得られたことにより、課題の可視化と理解及び連携の促進を図ることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

背景および目的

全国の聴覚障害者数は37.9万人（令和4年）と推計される¹⁾。聴覚障害者は、音声言語を使用する集団の中で生活全般においてコミュニケーション障壁に直面しやすく、情報アクセスの制限や誤解による慢性的ストレスを抱えやすい。また、家庭内コミュニケーション不全やいじめ経験など、心理社会的ストレスの蓄積が多いことが指摘されている²⁾³⁾⁴⁾。これらの要因は、依存症のリスク要因である「孤立」「ストレス」「援助の求めにくさ」と密接に関連する。

アルコール依存症においては、令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」によれば、生涯に一度でもアルコール依存症の診断基準を満たす人は、全国で約64.4万人と推計され、さらに、過去1年間にアルコール使用障害が疑われる者は、全国で約304.1万人と推計されている⁵⁾。

国内には統計がないものの、米国の物質乱用・精神保健サービス局（SAMHSA）は、障害者は非障害者と比較してアルコール依存症を含む物質使用障害の有病率が高く、治療アクセスが著しく低いと指摘している。この治療ギャップは、医療機関のアクセシビリティ不足、コミュニケーション障壁、障害特性への理解不足、誤診・未診断のリスクなど、複数の要因が複雑に絡み合うことで生じるとしている⁶⁾。同様のことは国内の聴覚障害者の受療において指摘されている⁷⁾。

聴覚障害者のコミュニティは精神的な支えとなる一方、飲酒が社交の中心になることがある。聞こえる人の中で長い時間を過ごす聴覚障害者にとって、同じ聴覚障害者同士で集う楽しいリラックスした時間となる場が飲酒の場であることで飲酒機会が増えアルコール依存症に進行する人もいるものの、情報が制限されがちな聴覚障害

者のコミュニティの中で「依存症は病気」との理解がされず、治療につながらないまま病状が進行している事例がある。

アルコール依存症の治療には個別の精神療法や認知行動療法的な考え方に基づく集団精神療法や自助グループへの参加が有効とされている⁸⁾ものの聴覚障害者が集団精神療法や自助グループに健聴者同様に当たり前のように参加できているとは言えず、聴覚障害のあるアルコール依存症者は依存症治療につながった後にも障害に応じた治療環境が保障されないことがある。海外には聴覚障害のあるアルコール依存症者の自助グループがある⁹⁾が、国内では過去に取り組みがあったものの現在はなく、回復に必要な自助グループに手話通訳等を利用して参加している人はわずかにすぎない。

そこで筆者らは事例を通して知り合った支援者同士で当会を発足し、聴覚障害のある人でアルコール関連問題がある人への支援について検討することとした。

当会設立後に支援者同士で情報交換をすると、大阪府下において聴覚障害がありアルコール関連問題のある人は複数いるとわかったものの、依存症治療に欠かせない集団精神療法が健聴者中心に実施されるためストレスを生じ、仲間意識も形成されにくく治療中断しやすいことや、そもそも支援者自身が聴覚障害やアルコール依存症についての理解が不足していることがわかった。そこで当会の目標を、聴覚障害のある人同士で手話を言語としたグループを設立することとし、聴覚障害支援者とアルコール依存症支援者が互いの支援技術に学びあいながら、グループ設立に向けた準備を行うとともに、対象者の発見や治療ギャップの解消、支援人材の育成のための活動に取り組むこととした。

方法

1. 広報活動：聴覚障害のあるアルコール依存症者の支援への関心を喚起するために、当会のチラシを作成し配布する。
2. 学習会の開催：聴覚障害者の理解や支援方法、言語文化の違い、依存症の理解や支援方法などの学習会を定期的に開催する。
3. 手話を言語とした依存症者のグループ設立に向けたイベントを開催する。
4. 聴覚障害のあるアルコール依存症者への回復支援テキストを作成する。

結果および考察

1. 当会のチラシを 500 部作成し、配布した。別紙 1
2. 毎月 1 回学習会（定例会）を開催した。手話の学習、事例を通して聴覚障害者支援に必要な知識や社会資源の活用方法、ろう文化、アルコール依存症者支援の知識や支援技術についてディスカッションを行った。別紙 2
3. 研修会「聴覚障がいとアルコール依存症」を開催し、研修会の効果についてアンケート調査を実施した。別紙 3
4. 「聴覚障がいとアルコール関連問題 理解とサポート ～支援者向けガイド～」を 7000 部作成し、配布した。その効果についてアンケート調査を実施した。別紙 4

以上の取り組みにより、聴覚障害者にとっては情報格差によるヘルスリテラシーが不足しておりアルコール依存症者にとっては病気それ自体への理解が不十分であるものの、それらを知り、解決方法を学ぶ機会が不足していることがわかった。研修会では生活背景や生活文化の理解と、情報保障が全く十分ではなくその手法のみならず内容についても十分に精査される必要があることに多くの人が気づかされた。

聴覚障害のあるアルコール依存症者の困難は実際より過小視されやすく、聴覚障害の支援者はアルコール依存症支援の技術を、アルコール依存症の支援者は聴覚障害の支援技術を、学習会を通して相互に伝達しあうことで「なかなか医療につながらない、治療継続が難しい」という支援者の困難感の解決につながった。社会資源の活用についても互いの支援技術に学ぶところが多く、普及のために作成した支援ガイドは「役に立ちそう」との回答が多かった。

今後の課題としては、研修会の開催は大阪府中河内二次医療圏を対象としたため他地域での啓発が不十分であることと、研修会や支援ガイドのアンケート調査には「支援者向けの手話教室を開催してほしい」「文字が小さく見にくい。わかりにくい」というニーズもあるため解決方法を模索したい。また当会のように聴覚障害とアルコール依存症について学び合い啓発していく団体は他に見当たらないため、この活動の持続可能な運営方法についても検討を要する。アンケート調査では回答者の20%が「聴覚障がい者でアルコールの問題のある人とかかわりがある」と答えている。支援者同士がつながることで当会の目的であるグループ設立に向けて対象者の呼びかけやグループの構造及び運営についても更なる研究が課題である。

別紙

別紙 1

医療・福祉関係者のみなさまへ ～はなしあいませんか～ 聴覚障がいとアルコール依存症 のある方の支援について

アルコール依存症のある方への支援については
最近、研究や実績が進んでいますが、
聴覚障がいのある方の場合、情報が入りにくいため、
自身の依存に気づかなかつたり、治療に支障がでたり、
自助グループに参加しにくく孤立しがちになります。
支援者側もその方とコミュニケーションが
うまくとれず悩みがちです。
この課題について一緒に考え、話し合ってみませんか。

対象／医療従事者、行政、介護・障がい者支援関係者

開催日時／月 1 回 15時～16時 zoom

聴覚障がいのあるアルコール依存症のグループ検討会

連絡先: オラシオン相談支援センター
oracion-inc@nifty.com

まずは、メールにてお問い合わせください。

聴覚障害のあるアルコール依存症のグループ検討会 学習会 開催状況

年月	方法	参加人数	内容
4月	オンライン	11名	事例研究 就労支援 欠格条項について
5月			啓発イベント開催のため休会
6月	オンライン	9名	事例研究 就労支援と家族への関わり方
7月	オンライン	9名	事例研究 医療機関と地域包括の連携
8月	オンライン	9名	事例研究 障害者雇用
9月	オンライン	9名	事例研究 社会資源 自助グループの聴覚障害のあるアルコール依存症者へのガイドラインについて
10月	オンライン	11名	事例研究 未治療の人への関わり
11月	オンライン	11名	事例研究 体調管理やストレスケアについて
12月	オンライン	10名	事例研究 希死念慮のある人への支援について
1月	オンライン	10名	事例研究 失職後飲酒量が増えているが受診に応じない事例について
2月	オンライン	8名	事例研究 これまでの事例の経過報告
3月	対面とオンライン	11名	事例研究 支援の受け入れを拒否する人への関り 措置入院者等退院後支援事業について

学習会参加者の気づきや感想

1, 依存症支援者が聴覚障害支援について知ったことや、合理的配慮の工夫

- ・日本語（漢字）で意味が違う言葉も、手話では同じ言葉がある（例：「当たる」と「適当」）。
- ・日本語を手話にしても伝わらない。経験の無い事は想像できない。
- ・小さい頃から「聞こえる人に合わせなさい」と育った人も居る。
- ・困りごとを上手く伝えることが出来ない。支援者が訊くことに合わせて答えてしまうことがある。
- ・聞こえる人が自然と見聞きして得ている情報が、聞こえないことで得られずに過ごすことが本当に多いんだろうと思う。
- ・日常の困りごと以外に、どう情報保障をするかの対策も必要。
- ・合理的配慮：筆談や顔の表情などでコミュニケーションしている。
- ・通院初期の頃は受診やプログラム参加にあたり通訳派遣を依頼した。
- ・手話通訳は毎回同じ人とは限らないことや、本人自身が必要性を感じていなければ通訳の言葉も入っていないこともあり、手話通訳の難しさを感じることもあった。
- ・通院が継続してきたころからはコミュニケーションの主な手段は筆談となった。
- ・マイクでの呼び出しは聞こえない為、医師が直接本人を呼びに行くこともある。
- ・診察をスムーズにするため、診察前に本人から動向や希望を確認したうえで診察に入ってもらふ事もある。
- ・情報保障・聴覚障害者の特性を理解した上での対応を心掛けている。
- ・入院中は、教育的なプログラムには手話通訳士を派遣。
- ・院内例会は、手話通訳士の派遣が難しい場合は手話ができる職員が通訳。
- ・プログラム後には、看護師が感想や質問を聞いていた。
- ・病棟生活で孤立しない様に、CW が毎日声をかけに行き筆談や手話で面談。

別紙 2

- ・ 診察場面や看護師からのオリエンテーション時などには、手話ができる職員が同席し筆談と手話で対応。
- ・ 手話ができる職員同伴で断酒会へ参加し繋げたケースもある。
- ・ 断酒会から3～4人、聴覚障害者でAL症の方3～4人と職員が集まり、断酒会員の家で例会を行っていた。お酒無しの忘年会もしていた。現在は、メンバーも高齢で亡くなった方も多くなっている。
- ・ 専門クリニックからの紹介で、聴覚障害でAL症、認知症の方が入院し保護室での対応が必要となったケース。保護室に入ること、よりコミュニケーションが取れなくなり拘禁反応がでる恐れがあった。そのため、保護室入室している時間を短くしようと、保護室には19:30～翌朝までの隔離とした。日中は看護師が詰所内で見て、17時から夜勤で看護師が少なくなると19:30まではCWが残り対応していた。
- ・ 他市に聴覚障害と知的障害を対象としている施設があり、退院後入所したケースもあった。
- ・ 全断連へ働きかけ、大会時手話通訳士を派遣してもらえるようになった。
- ・ 聴覚障害の方は手話や筆談だけでなく口話を見てコミュニケーションをとることが多い。コロナでマスク着用する人も多く口話が見えなくなり、日常生活の中でも困り事になっているのではとも感じている。

2. 聴覚障害支援者が依存症等精神疾患について知ったことや支援の工夫をしたところ

- ・ 何故止められないのかということがわかった。
- ・ やめ続けることの大変さ。それには自助グループが必要。
- ・ 自助グループでは、人を信用できなかった本人が人を信じるできるようになり、正直に安心して話ができるようになる。人と関わりながら回復できる。
- ・ 飲酒が原因で、身体全体に影響がでることは知っていたが、内臓だけでなく歩行困難や記憶障害も起きる。
- ・ 否認してしまうこと。
- ・ 支援の工夫をしたところ：話をよく聞く。しんどさに共感。批判しない。物質に変わ

別紙 2

るものを一緒に考える。専門外来に繋がっていない人には、専門外来の紹介をしたり、動機付け面接をする。

- ・ 欲求への波や家族間でのストレスなど、問題にばかり目が行ってしまい、本人に寄り添えていないと反省。みなさんからの意見を聴き、改めて本人や家族への関わり方、また依存症について理解を深めてもらう為の伝え方を考えるきっかけをいただいている。
- ・ 依存症専門医療機関や専門相談機関からこの会議を通じて専門的な情報提供をいただけている。
- ・ 各所で開催されている研修会等への参加。
- ・ 依存症に限らず精神疾患は入院治療を受けたら完治するものではないため、入院中に外出飲酒をしたり、再飲酒や入退院を繰り返すことが殆ど。完治は出来なくても、断酒し回復していくことは誰でもできる病気。
- ・ アルコール以外の精神疾患も持つ方も多く、断酒しても統合失調症で幻聴が続き症状がひどくなると避難入院したり、市販薬・処方薬乱用があり断薬のために入院治療を受ける方もいる。
- ・ 入院中にカンファレンスを開き、本人や家族、支援者がこれまでどんな思いを抱えていたのかを知り、退院後の生活を考える時間を作るようにする。
- ・ 施設や作業所の職員、地域支援者と連携し、退院後も服薬管理や健康維持、通院継続、自助グループへ参加できるように働きかける。
- ・ 1 クールの入院治療が受けられるように、仕事や金銭面、生活・育児等相談を聞き社会資源活用し支援する。

3, 全体の感想

- ・ 毎回手話単語を少しづつ学べたのが楽しかった。
- ・ 事例を通してお互いの支援技術を学ぶことができた。

【研修会報告】

聴覚障がいとアルコール依存症

2025（令和7）年5月22日（木）

- 14 : 00 主催者代表あいさつ
聴覚障がいのあるアルコール依存症者のグループ検討会
代表 稲 淳子
- 14 : 10 「アルコール依存症 最初のまなび」
新生会病院理事長・院長 和気 浩三先生
- 15 : 00 「ろう医師として伝えたい
ろう者の苦しみ・楽しみ」
東大阪生協病院医師 今川 竜二先生
- 16 : 00 休憩・質問集約
- 16 : 10 質疑応答
- 16 : 25 閉会あいさつ
聴覚障がいのあるアルコール依存症者のグループ検討会
事務局長 辻本 直子



主催：聴覚障がいのあるアルコール依存症者のグループ検討会

《開催趣旨》

稲代表開会挨拶より

聴覚障がいを持った当事者とかかわっていく中で、聴覚障がいの特性を理解したい、どうコミュニケーションをとっていけばいいのか色々悩み、その体験を分かちあい、もっと良い支援を考えていきたいというのが本「グループ検討会」です。

さらに、アルコール依存症は自覚しにくい病気と言われています。依存症は人と人のかかわりを壊す病気です。依存症回復支援の現場では、支援者と当事者、そして当事者同士で思いを伝え、思いを分かちあうことが大切です。相互に支えあうことが基本になるため、コミュニケーションが重要な役割を果たします。しかし、情報障がい者である聴覚障がい者が自分の思いを伝え、安心できるコミュニケーション環境はどうか？十分ではありません。聴覚障がい者の背景や特性、言語力について理解したいがどうしたらいいか。

聴覚障がい者の特性を誤解してしまい、当事者にとって理不尽になってしまうことがあります。少しでも、聴覚障がい者が安心して依存症回復の支援を受けられるようにしたいと、福祉サービス利用の情報、コミュニケーション環境などを支援者の皆さまと一緒に考え、その思いを共有したいとの思いに至り、三菱財団助成のお力をお借りして、本研修会を開催させていただきました。



《参加案内・参加者》

今回は初めての試みであったため、研修会案内を大阪府下のアルコール依存のある方やご家族の支援に取り組んでいる医療機関や福祉事業所、保健所・保健センター、聴覚障がい者支援機関等への広報を基本に、現「グループ検討会」の地域性も考慮し、八尾市、東大阪周辺の相談支援支援機関等へ集中的に広報した。

〈参加者内訳(事務局13含む)〉

医師:1
精神保健福祉士:13
社会福祉士:5
介護福祉士:5
手話通訳者:7
相談支援専門員:6
生活支援員・就労支援員:6
薬剤師:2
看護師4
行政職員:5
その他:1
手話通訳者・要約筆記支援者:6
合計:61
うち、ろう当事者:5

〈地域(事務局除く)〉

八尾市:9、東大阪市:8、大阪市:14、堺市:3
府下他市:6、他県:1、不明:1

「アルコール依存症 最初のまなび」 新生会病院 和氣浩三先生



(研修会資料より)

ICD10依存症候群

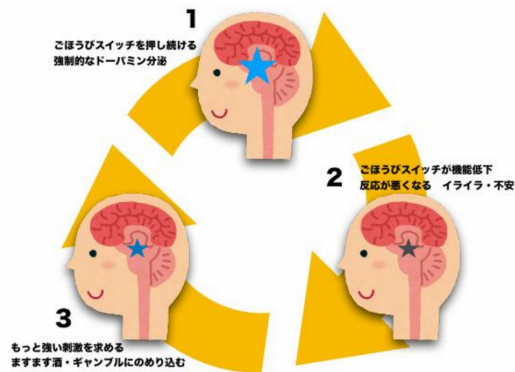
「ある物質あるいはある種の物質使用が、その人にとって以前にはより大きな価値を持っていた他の行動より、はるかに優先するようになる一群の生理的、行動的、認知的現象」

具体的には

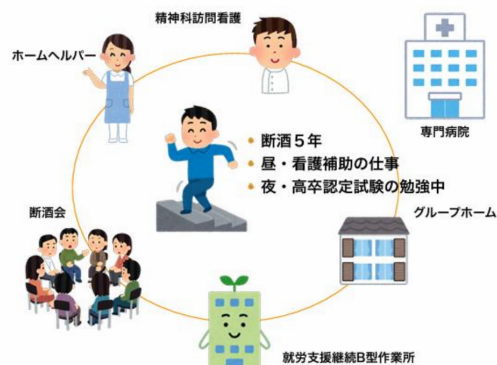
- 1、「ある物質や行動への渴望」
- 2、「渴望する物質の摂取や行動の制御困難」
- 3、離脱症状
- 4、耐性
- 5、渴望する物質の摂取や行動以外に対する関心の低下
- 6、渴望する物質や行動に起因する障害があるにもかかわらず、摂取や行動を継続する。

⇒依存症は**脳**の病気

＊ ごほうびスイッチ(脳内報酬系)



⇒依存症は**心**の病気



依存症かもと思ったら？

まずは相談・受診を



秘密は守られる
早期発見早期治療
適切な治療と支援で回復する

周囲が依存症の正しい理解
再発しやすい病気
回復には年単位かかる
伴走してくれる仲間・支援者の存在
自助グループ



「ろう医師として伝えたい ろう者の楽しみと苦しみ」 東大阪生協病院 今川竜二先生



(研修会資料より)

東日本大震災時

岩手県宮古市・・・全体死亡率 0.87%

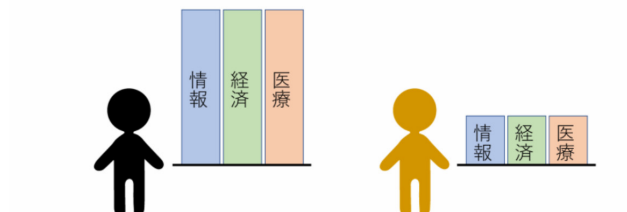
聴覚障害者の死亡率 1.86%

宮城県南三陸町・・・全体死亡率 4.55%

聴覚障害者の死亡率 26.19%

障害の本質とは何か？

情報格差



ミシガン大学医学部家庭医学研究科
マイケル・M・マッキー 助教

手話を使用する聴覚障害者の約48%においてヘルスリテラシーが不十分であり、比率は聴こえる人と比較し6.9倍高い。⁴⁾

4) Assessing Health Literacy in Deaf American Sign Language Users
J Health Commun. 2015 October ; 20(10 2): 92-100.



→仕方がないとガンマンすることが多い。

Case 2

「批判的ヘルスリテラシー」

自分の目的の実現が障害されているときに、置かれた状況を分析し、それらを変えていく能力



豪・サウサンプトン大学学長
ドン・ナットビーム博士



当事者がこの提案をすることで周りが変われば、自らの目的を達成できたのかもしれない。

今回は第三者の聴覚障害者が引っ張ってくれたので、第三者によって批判的リテラシーが後押しされたケースでもありました。

→一緒にどうすればいいかを考える。

まとめ

- ①ろう者の数は決して少なくないが、外見で判断できないため身近に感じにくい障害である。
- ②障害の本質は情報格差にあり、経済や医療格差にもつながる。
- ③批判的意識をもちにくく周囲へ働きかけられない人が多い。
- ④劣悪なヘルスリテラシーに埋もれたまま周囲にも気づかれず、苦しむ人が多い。

プロフェッショナルのみなさまに期待すること

- 🌸 ろう者と対等な土台に立ち、公平な対応ができる知識、柔軟性、対応力を身につける。
- 🌸 ろう者と接したら、目のケアだけでなく、ヘルスリテラシーにも目を向ける。

プロフェッショナルのみなさまに期待すること

- 🌸 ろう者も多種多様。答えは無限。私にもわからない答えがある。
- 🌸 当事者も入れてケースワーク、ケーススタディを繰り返すことが重要。今日はそのベースとなる知識の一部としてご活用ください。

〈質疑応答〉

16人の方から質問をいただきましたが、時間の関係で6人の方にはしかお答していただけませんでした。大変申し訳ありませんでした。

今川先生質疑応答要旨

- ・医師を志したきっかけについて、「ブラックジャックが好きで勉強が好きだった。」
- ・またこれまでの支援の中での経験を踏まえ、「ろう者が支援の内容をどこまで理解できているのかわからないことがある。まずはコミュニケーション保障が一番だろうし、手話通訳の利用は欠かせない。しかしそれで100%安心かという、相互の相性の問題もあると思う。しかしながら、コミュニケーション保障が最優先であり、問題解決の近道だ。」

和氣先生質疑応答要旨

- ・暴言や意味不明発言時の対応、「離れることです」「自分がへこんだ時には周りの人に聞いてもらう。また変わってくる人、変わってきている人との出会いも大切。」
- ・認知の状態も見極め、コミュニケーションの問題なのか？病気の問題なのか？離脱期の長い人もいる。本人との関係では距離の取り方を学ぶこと。注意するよりも聞く方がいい。
- ・重複障がいの人には2重3重の敷居がある。体験談は耳から入る情報だが、手話でのコミュニケーション保障は十分ではない。安心して医療機関に来ていただけるようにしないといけない。」



《グループ検討会について》

辻本事務局長閉会挨拶より

日本ではきちんとした統計はありませんが、海外のある研究によれば聴覚障がいの方の依存症発症率と、一般人口のアルコール依存症発症率は変わらないそうです。

依存症治療先進国であるアメリカでは、障害を持つアメリカ人法が制定されて、アルコール依存症者の自助グループであるAAでは現在、手話を言語として行う自助グループと手話通訳者がいる自助グループを毎日10ヶ所程度開催しているそうです。そのAAのガイドラインには「ミーティングで見かけることが少ないからといって、会場の外で、聴覚に障がいのあるアルコール依存症者が苦しんでいないとは限らないのだ。」と書かれています。

聴覚障がいがある人でお酒の問題を何とかしたい人が仲間と出会い、一緒にお酒をやめていけるグループがあったら、という願いから「グループ検討会」は始まりました。



《アンケート集約》

事務局を除く参加者42名 回答数15 回収率35.7%

①和気医師「アルコール依存症 最初のまなび」を聞いて、アルコール依存症についての理解度を教えてください。

☐よく理解できた ☐まあ理解できた ☐どちらともいえない ☐難しかった
☐とても難しかった

・よろしければ、感想をご記入ください

自由筆記

②今川医師「ろう医師として伝えたい ろう者の苦しみ・楽しみ」を聞いて、聴覚障がいについての理解度を教えてください。

☐よく理解できた ☐まあ理解できた ☐どちらともいえない ☐難しかった
☐とても難しかった

・よろしければ、感想をご記入ください。

自由筆記

③この研修に参加したいと思ったきっかけについて教えてください。(複数回答可)

☐テーマに興味があったから
☐アルコール問題があると思われる方へのかかわりについて知りたかったため
☐聴覚障がいの方へのかかわりについて知りたかったため
☐アルコール問題があると思われる方へのかかわりで悩んでいるため
☐聴覚障がいの方へのかかわりで悩んでいるため
☐その他 (自由筆記)

④上記③で「アルコール問題があると思われる方へのかかわり」で悩んでいるためを選ばれた方に質問します。どのような事で悩まれていますか。

自由筆記

⑤上記③で「聴覚障がいの方へのかかわり」で悩んでいるためを選ばれた方に質問します。どのような事で悩まれていますか。

自由筆記

⑥聴覚障がいのある方やその家族にかかわったことがありますか。

☐ある ☐ない

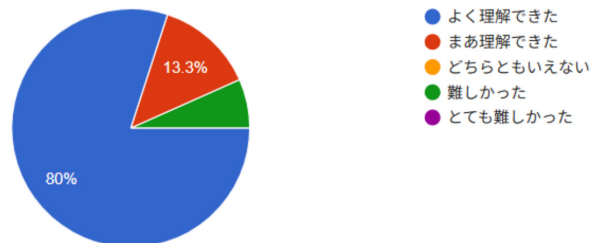
⑦アルコール問題があると思われる方やその家族にかかわったことがありますか。

☐ある ☐ない

事務局を除く参加者42名 回答数15 回収率35.7%

①和気医師「アルコール依存症 最初のまなび」を聞いて、アルコール依存症についての理解度を教えてください。

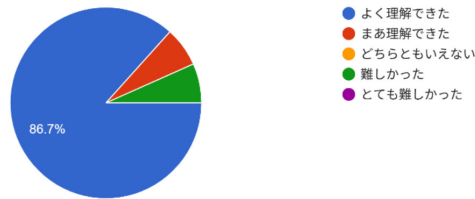
15 件の回答



②和気医師「アルコール依存症 最初のまなび」の感想をご記入ください。

- * 具体的に話して頂きわかりやすかったです。
- * 依存症の定義を今回知ったということで聴講した意義があったと思います。
- * 貴重なお話ありがとうございました。とてもわかりやすく、勉強になりました。
- * 皆んなが依存症への偏見を取るのに役立つ講演でした。
- * 初心者にもわかりやすい講演でした
- * 依存症は脳とかからの病気だということにはっとした。波平は依存症でびっくり
- * ごほうびスイッチがあるという話は すごくわかりやすく理解できた
- * アルコール依存症の基礎知識について学ぶことができ、また和気先生の専門性を踏まえた上での本人に寄り添った関わりを知ることができ、学びとなりました。

③今川医師「ろう医師として伝えたい ろう者の...聴覚障がいについての理解度を教えてください。
15 件の回答



④ 今川医師「ろう医師として伝えたい ろう者の苦しみ・楽しみ」の感想をご記入ください。

* 本質である情報格差について、とても分かりやすかったです。さらにろう者の読み書きだけでは情報が十分に伝わらないことなど現場の医師にも情報提供してほしいと思いました

* 自分自身も聴覚障害者なので共感しました。

* 貴重なお話をありがとうございました。業務において、ろう者へ関わる時に気をつけることを明確に教えて頂き、感謝しています。

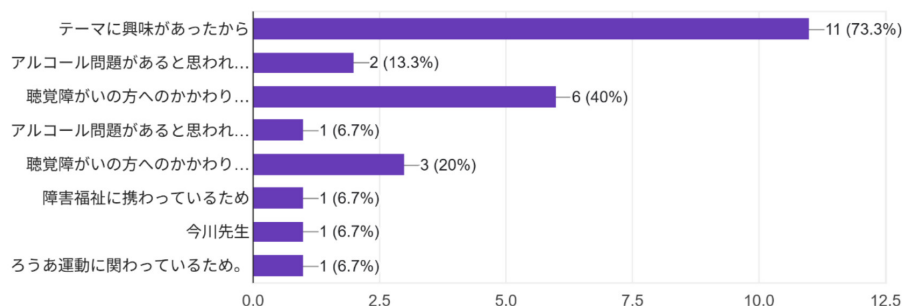
* すごい一言です。YouTubeを見ました。

* ろう文化が理解できた

* 聞こえる社会と聞こえない社会があることを知った。聾者に対しての配慮がないことが障害。まだまだ社会全体は健常者向けだなと感じた。ヘルスリテラシーが不十分であること。わたしが常識と思っていることは聾者にとっては常識ではない。

⑤この研修に参加したいと思ったきっかけについて教えてください。(複数回答可)

15件の回答



⑥上記⑤で「アルコール問題があると思われる方へのかかわり」で悩んでいるためを選ばれた方に質問します。どのような事で悩まれていますか。

*** 仕事関係で、アルコール依存症と思われる人がいます。いろいろトラブルになったこともあり、本人には早く病院に行ってほしいのです。他人の言葉に反応しない、ウソをついて逃げるため、家族も見放した状況。病院に連れていく方法、どうすればよいか、周りの者は悩んでいます。**

⑦上記⑤で「聴覚障がいの方へのかかわり」で悩んでいるためを選ばれた方に質問します。どのような事で悩まれていますか。

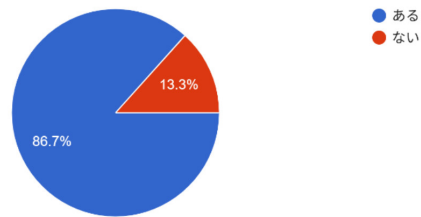
*** 感情の起伏が激しいので、その対応に苦慮している**

*** 聴覚障がいの方にどのように情報提供をするか、こちらの価値観で話を進めてしまうことにならないようにするにはどうすればいいか。**

*** 過去に聴覚障害者の方が通所されていた時の事を振り返り、やはりこちらが伝えたい事がなかなか伝わっていなかった事に悩みを持っていました。**

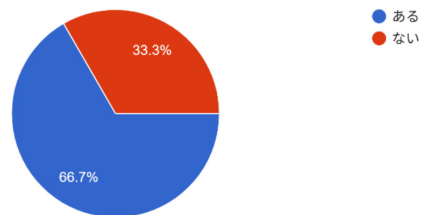
⑧聴覚障がいのある方やその家族にかかわったことがありますか。

15 件の回答



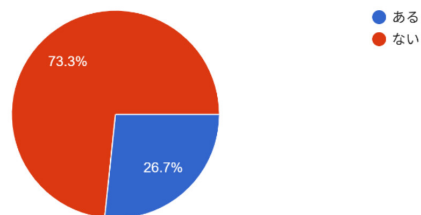
⑨アルコール問題があると思われる方やその家族にかかわったことがありますか。

15 件の回答



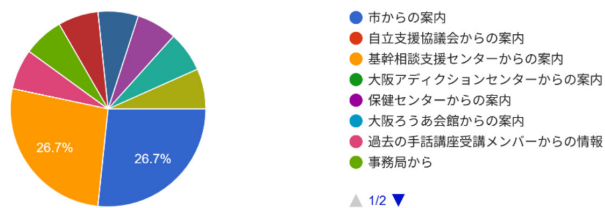
⑩聴覚障がいのある人でアルコール問題があると...る方やその家族にかかわったことがありますか。

15 件の回答



⑪この研修開催をどこでお知りになりましたか。

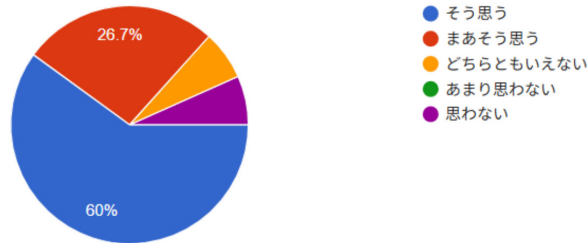
15 件の回答



⑫今回の研修は、業務に活かそうですか。



15 件の回答



⑬上記⑫の回答の理由をお書きください。

＊それぞれの特性は今回わかりました。次にアルコール依存を持つ聴覚障害の方との関わりを聞きたいです。

＊申し訳ないですが、現在そのような業務ではないためです。

＊障がい福祉課はろう者の方が良く利用されます。サービスの説明等、関わるが多いと思います。

＊出来ることがありそうです。AIを利用するとかアプリを開発するとかできたらいいですね。

＊対応時に役立ちそう

＊ヘルスリテラシーが不十分であることを知った

＊日々の生活の中での工夫、ヒントを教えてもらったから

＊聴覚障がいのある方の情報不足やその中で自己決定できていない状況を知ることができたため。

＊ろうの方とあまり接する機会がないがアルコール依存症の方は接する機会があるので、接し方についてはやってみたいと思った

＊目の前に問題があり、解決までは至らないかもしれませんが、先生方のお話は大変参考になりました。

＊ある程度知っていた内容でしたが、改めて再認識する機会になりました。

＊現在の事務所では、聴覚障害とアルコール依存の方は居ないです。

＊本人の努力に尊重の気持を持つことができたことです

＊質疑応答の時の今川先生のお話により、聴覚障害者とのコミュニケーション方法を回答されていた事を、過去の我々がしていた支援と照らし合わせた時に、方法としては間違えてはいなかった事が理解出来ました。ただし、やはりツールとしては手話が必要だと感じました。

＊近々、聴覚障がいを持つ人を就労継続支援A型事業所で受け入れる予定があり、その方への情報保障についての示唆をいただきました。

15

⑭最後に要望や質問があればお書きください。今後の検討会の活動の参考にさせていただきます。

7件の回答

＊情報保障があると、ホッとします。ありがとうございました。

＊オラシオンで取り組みされている、ろう者のAAについて。現状やこれからの課題、目標などを知りたいと思います。

＊簡単な、とは失礼かもしれないのですが、これさえ覚えておけばコミュニティが出来る手話教室を開催していただければと感じます。

＊一度、依存症になられた方が再度依存症にならないためには、支援者として必要なことは何でしょうか。

＊どの研修会、勉強会でも思うのですが、初回は仕方ないとは思いますが、自身のプロフや施設案内は極力短縮して欲しい。1番触れたい中核の部分を充実した内容にして欲しいと思います。紹介ばかりに時間を費やすのは勿体無いと思うので、紹介部分はパンフレットに詰め込むなどで良いかと私個人的に思います。生意気ばかり言ってすみません。

＊意義深い研修を開催して頂き、ありがとうございました。

【まとめにかえて】

「聴覚障がいとアルコール依存症」と冠する研修会は初めての試みではないかと思われます。とりわけ聴覚障がい者に対する支援は限られた範囲では、積極的にきめ細かく取り組まれています。アルコール依存症のある方への支援(家族等への支援を含んで)も、残念ながら改善しているとは言いながら、障がい者や高齢者の支援者にも、まだ「あたりまえ」の支援とはなっていない現状があります。

それぞれの方の生活背景や生活文化、とりわけ情報保障が全く十分ではない現状を認識させられ、情報保障についてはその手法のみならず内容についても十分に精査される必要があることにも気づかされました。そういう意味では課題の大発見という研修会だったと思われます。

アンケートでお答えいただいた様々なご意見に対しても、また当日の質問に対してもお答えできていません。今回の研修が「初めの第1歩」としての役割は果たせたものと考えていますが、課題が一つでも解決できるような今後の展開をどのように見通せばいいかについて、「グループ検討会」に多くの人たちに加わっていただき、すそ野をさらに広げていく必要があると考えています。本研修会は、そのためのきっかけを提示できたと考えています。

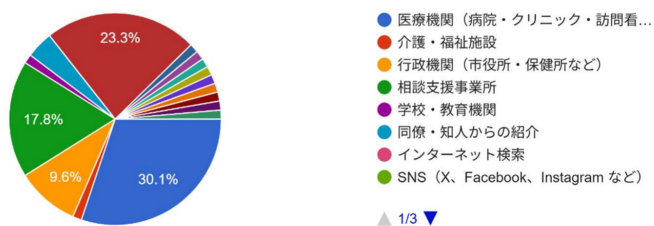
支援ガイドアンケート結果

アンケート期間：2026 年 1 月 14 日～2 月 28 日

支援ガイドを配布する際に二次元コード付きアンケートを用いてインターネット調査を実施
回答数 73 回収率 15%

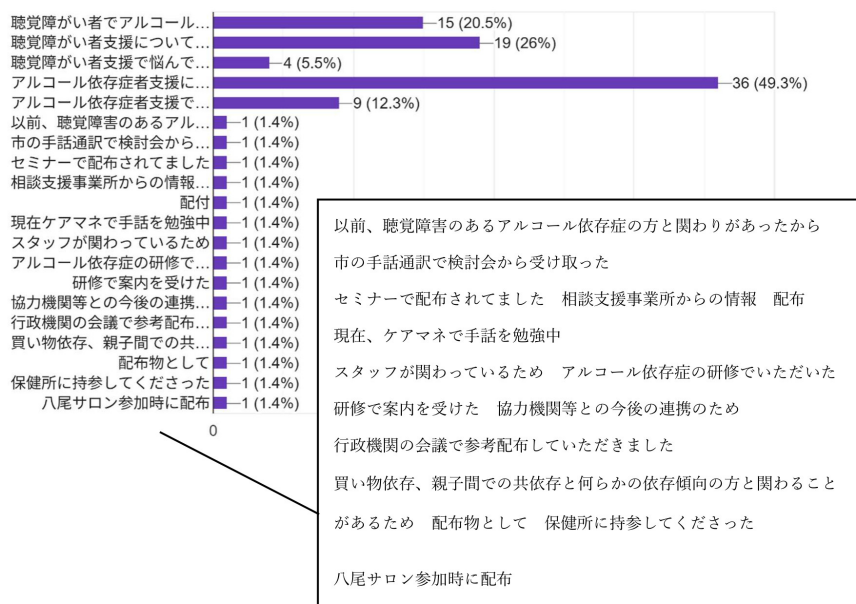
1. この支援ガイドをどこから入手しましたか？

73 件の回答



2. この支援ガイドを入手した理由を教えてください（複数選択可）

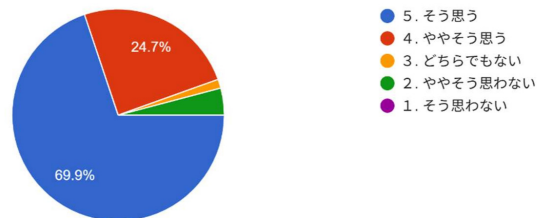
73 件の回答



別紙 4 - 2

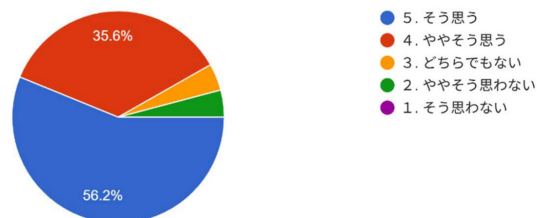
3. 支援ガイドの内容は分かりやすかったですか？（5段階評価）

73 件の回答



4. この支援ガイドは業務に役立ちそうですか？（5段階評価）

73 件の回答



5. 具体的に役立った部分があれば教えてください（自由記述）

聴覚障害とアルコール関連問題の関連性について知ることができた。

支援者に知っておいてほしいことの欄が具体的に書いてあるのでわかりやすかったです。

家族ではない第三者に通訳を依頼する方が良いという点が参考になりました。

アルコール依存症の中には聴覚障害者も居るのだと言う、当たり前の事に改めて気付かされた

聴覚障がいの方の理解や対応について具体的に書かれていて参考になりました。聴覚障かまいの方＝手話を使う人ではないことも理解しました。精神科では聴覚障がいがある方と出会う機会が少ないのでガイドがあることはとても助かります。

うなずき＝理解ではない

病気であるという点を明確にしている点。

9～12 ページの内容について依存症テーマを浮かべながら理解できる。

別紙 4 - 2

手話が載っている 聴覚障害の方への支援の留意点が分かりやすい

おおさか依存症ポータルサイト、背景理解と適切な支援のために

自助グループの開催場所がわかりました

聴覚障がいのある人との関わり方で特性がある事

聴覚障がいの保護者との関わりにうまく使えるようになりたい

聴覚障害者へのサポートや理解をわかりやすく説明してあると思います

回復事例が記入されていたのはとても良かったと思います

手話の絵が書かれてあり、わかりやすかった

解説が丁寧でした。

手話が良かった

これまでなかったため

環境調整

聴覚障がいの有無にかかわらず、内容がわかりやすい

伝え方によって捉え方も変わってくる為、手話や観察する着目点等、大事になってくると思います。

社会資源情報

グループワークを通して個人情報の取り扱いなど話し合いどきた

簡単な手話や、コミュニケーションのポイントなどの説明が大変参考になりました。

支援者に知っておいてほしいこと、の項目についてを、知識として理解していても実際の支援の場に立った時に抜けてしまう職員も多く感じるので、情報共有の場でこちらの内容を参考に振り返りが出来ればと感じております。

悩みを口にすることが大切。

行政のサービスを利用して受診や自助グループに参加する方法があることを知れた

特に聴覚障害についての理解や支援者が知っておくことの情報が知れて良かったです。

依存症に対する考え方。また、聴覚障害者との最低限の接し方。

別紙 4 - 2

聴覚障害の方への理解が深まった

聴覚障害について何も知らなかったので、聴覚障害の方に必要な環境、支援者に知っておいて欲しい事などが特に興味深く拝見しました。

混練手話単語

就職が断酒につながるわけではないという切り分けが良かった

P9～16

支援者に知ってほしいこと

聴覚障がいがあり、当事者会でも十分会話ができないことがあるという事実を知れること。独自のグループがあることを知り、必要な方に案内できることです。

必要な環境を整える。筆談では伝わらない事もある。

手話がイラストで書いてあるところ

簡潔に病気についても分かりやすく記載されている

背景理解と適切な支援が参考になった。 また、医療情報ネットの情報も知ることができた。

6. 改善してほしい点がありますか？（自由記述）

意欲的な取り組みに拍手を送りたい気持ちです。 ただとにかく文字が小さくテキストが詰まっているので、正直読むのがしんどいです。

8分割してあるパンフレットなので、8分割したまま読めるようにしてあると使いやすいと思います。

字を大きくしてほしい

関連手話単語はイラストだと少しわかりにくい気がします

文字のサイズ。

必ずというわけではありませんが、振り仮名があるとより多くの方に手に取って理解していただけるのではと思いました。

支援者の相談先の記述やその相談先で何をどこまでしてくれるのかがわからない

音声読み上げコードなどがあれば、なお良いと思った。

別紙 4 - 2

特にないですが、アンケート結果など欲しいです

文字の大きさが小さいことと、ページのめくり方が最初分かりにくかったことなど。

社会資源の情報について、具体的な相談先(特に家族支援)の情報や窓口の連絡先などがあれば助かります。

体裁上仕方がないとは思いますが、少し文字が小さいかなあ。

ページを捲る感じがいい

字が小さい、老眼で見えない

A4 サイズのガイドがあるといい

7. 追加してほしい内容や項目はありますか？（自由記述）

多少コストがかかってもプロのデザイナーに関与してもらうと、劇的によくなると思います。

支援機関の連絡先

通訳派遣を依頼する場合の窓口、具体的な配慮事項、医療機関や公的窓口に行く際に聴覚障害の当事者の方が困ること

依存症の社会資源についてのホームページの QR コードのように、聴覚障がい支援の社会資源や団体などの情報が欲しいと思いました。

各地の自助グループに関する情報があっても良かったかなと思いました。

内容は、十分だと思います。

おすすめの手話の動画の QR コード

他の依存症についてや、依存症を本人、家族が受け止めるにあたってなど幅広い世代間の問題を取り上げてほしい

支援者向けのリーフレットとしては、支援者がある程度知っていると思われる情報（社会資源など）はもう少しコンパクトにして、聴覚障がいに特化される記事（体験コラムや手話のページなど）のボリュームを増やされてはどうか？

支援事例で発生した事と解決までの流れなどあるととてもありがたいです。

社会資源（1）の医療と自助グループの連絡先一覧

別紙 4 - 2

思いつきません

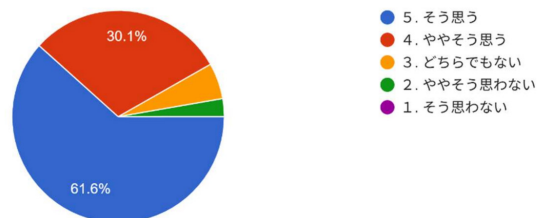
聴覚障がい社会資源の情報をまとめたサイトがあれば、QR とかあるといいなと思った。

外部の詳細ページに飛べるような QR コードがあればいい。

支援に悩んだ時に相談できる場所があれば。

8. この支援ガイドを誰かに紹介したいと思いますか？

73 件の回答



9. 8 の答えの理由を教えてください。

わかりやすかったため

このままだと紹介したり渡したりしても、あまり活用されないと思いますので。

知識のある人にも無い人にも使いやすい内容だから。

聴覚障害のある方に対し必要な配慮について具体的に知られていないことも多いから

聴覚障害の面がわかりにくかったです。

今のところ該当者がいないのでなんとも言えない

今のところ該当する人は居ない

依存症専門医療機関で共有したいと思いました。

いつか聴覚障害の依存症患者と関わる時が来たら紹介したい

別紙 4 - 2

所持しやすい小冊子であり、紹介しやすいと考えます。アルコール依存症は病気であるという点をもっと拡大すればと考えます。アルコールが、生活のあらゆる所に存在しており、そのこと自体が危険であるという点を共有できる可能性があるから。アルコールへのアクセスを遠ざけるという物理的な壁が必要ではと感じました。

自助グループでは音声言語で語ることを中心としてきたことに気づかされたので、多くの支援者にも知ってほしいため。

聴覚障害でアルコール依存のガイドは他にないから

職場のケアマネ間で共有してより良い支援に繋げたい

家族さんに

相談支援専門員など、アルコール関連問題に係る当事者や家族の支援で悩んでおられる方がいれば、ご紹介したいと思いました。

依存性問題を抱えている家族や本人が医療に繋がるきっかけになればいいと思ったから

支援者の中で聴覚障がい者との関わりに困っている人や、聴覚障がいがある事で支援を断っている事業者があるかも知らないので。

前提としてアルコール依存症について、話すことと聴くことが回復への一つの力だと考えています。聴覚障がいがあったとして、どのような対応や工夫で、回復に向かうことができるのか、情報を得ることが出来ると思ったからです。

視覚障害者の支援に悩んでいる人が他にも出てくると思うから

職員へも理解して頂けたらと思います

困っている支援者へ情報提供したい。

聴覚障害者への理解は、支援者のみならず全ての人に必要と思うため

アルコール依存のかたがいたら、そのまま ガイドを渡すのもいいかなと思いました

同じ悩みの支援者

必要な人があれば紹介したい

内容がよいから。

わかりやすい

別紙 4 - 2

アルコール関連問題のある聴覚障がい者とかかわりに慣れていない支援者にとってわかりやすい内容になっていると思ったから。

聴覚障害のあるアルコール依存症者の支援について理解が深まる

まだ聴覚障害のある方の支援に携わったことがないため機会があれば是非紹介させていただきたい

聴覚障害やアルコール依存などの知識がない人に、ガイドを見てもらいながら説明することで、より理解してもらえと思った

アルコール依存について、聴覚障がいについて大変よくまとまっていると感じました。

情報のカテゴリーがわかりにくく、全体として「役立つ」印象に欠ける

今現在対象の方で関わっている人がいない

私の住まいが奈良なので、奈良の聴覚障害関係者にも周知していきたいです。

あまり話題に聞くこと少ないが、支援に役立ち、分かりやすいため

ニッチなニーズですが、必ず必要だと思ったからです。

関心を持つきっかけは大切だと思うので

情報が活用されることがより良い支援につながるため

理解への入り口として、分かりやすいと思います。

支援者がまず正しい視点を持つことが重要ですが、当事者の方も支援を受ける際に納得していただける内容だと思われるため。

様々なケースで支援させて頂く中で、聴覚障害や依存症にたまたま関わらないまま経験を積む支援員もおります。事前知識として知っておく機会になれば支援力向上に繋がると考えます。

精神保健福祉士資格を持つ聴覚障害者支援をしている人達には既知のことで、どう本人を医療機関に繋がられるか、また、医療との繋がりを継続することが課題のため、困っている。しかし、聴覚障害福祉に関わっていない社会福祉士や精神保健福祉士には本支援ガイドを紹介することで、理解が広まるガイドだと思う。

依存症について端的に記載されているため

誰でも依存症になる可能性はあるため

依存症ではない聴覚障がい者への支援にも役立つ内容だったから

別紙 4 - 2

分かりやすい資料だったので紹介したいと思った

地域包括支援で必要な方にお渡ししたい。

接する機会があるので

聴覚障害、アルコール依存症について知ることができて、ガイドとして活用できると感じました。

同様に支援に困っている人は少なくないと思うから。

病気のことも、障害のことも分かりやすいから。

訪問時に資料として携帯して、対象者に説明がしやすいと感じました。

居たら、説明してみたいです

自分の視点だけでは分からない事が分かりやすく書いてあったから

患者さんに当事者がいらっしゃるから

貴重な情報を共有するため

保健所に配架させていただきます。

同じように支援で困っている人がいるから。

事業所内で情報共有したいと思います。

初めての試みだから

依存症になりかけの人に渡したい

最初の部分、わかりやすくまとめてあり、聴覚障害以外の人にも使えそう

聴覚障がいの方や関係者に広まってほしい。今まで伝わらなかったことが、伝わりやすくなる。

機会があれば

分かりやすく伝わる資料を持っていなかったのが、今後は関わる利用者様に紹介したい

まずは包括内で共有します

聴覚障害のある人が職員にいる。

アルコール依存症に関わる人に紹介したいと思った。

ポイントがまとめられていてわかりやすい

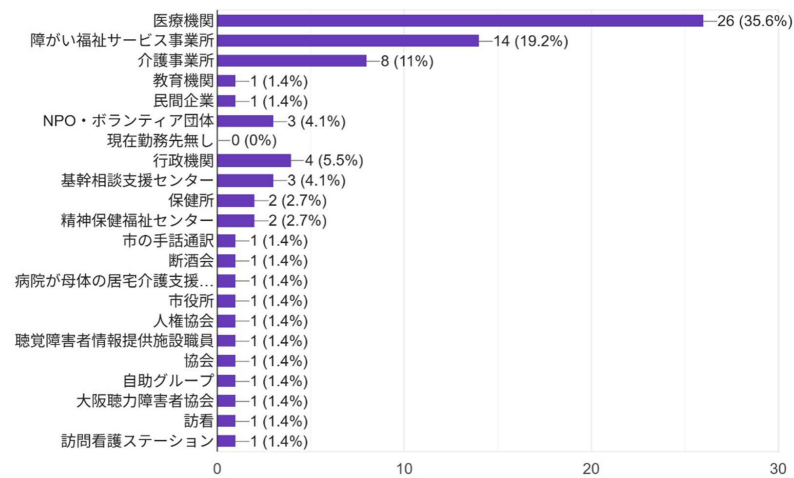
別紙 4 - 2

誰もがなりうる病気なため。人にも渡しやすい大きさだと思う。

聴覚障がい経験のあるなしにかかわらず、参考になる部分がある。

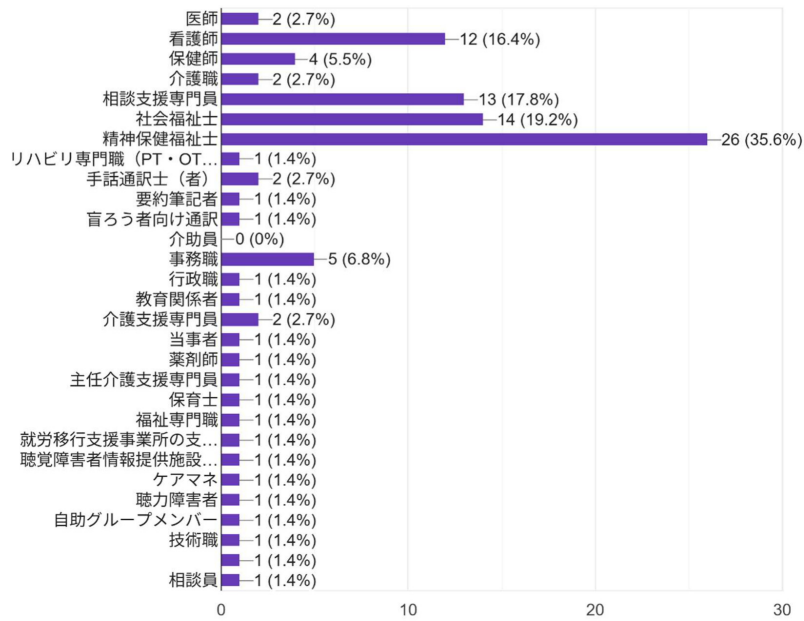
10. 所属（複数選択可）

73 件の回答



11. 職種（複数選択可）

73 件の回答



別紙4-3

「聴覚障がいとアルコール関連問題 理解とサポート ～支援者向けガイド～」アンケート

本ガイドをお手に取っていただきありがとうございます。アンケートのご協力をお願いいたします。このアンケートは、助成団体への報告としての資料になり、他の目的に使用することはありません。

回答期限は 2 月 28 日までです。よろしくお願いいたします。

1. この支援ガイドをどこから入手しましたか？

医療機関（病院・クリニック・訪問看護）

介護・福祉施設

行政機関（市役所・保健所など）

相談支援事業所

学校・教育機関

同僚・知人からの紹介

インターネット検索

SNS（X、Facebook、Instagram など）

研修会・セミナー

その他

2. この支援ガイドを入手した理由を教えてください（複数選択可）

聴覚障がい者でアルコールの問題のある人とかわりがあるから

聴覚障がい者支援について関心があるため

聴覚障がい者支援で悩んでいるため

アルコール依存症者支援について関心があるため

アルコール依存症者支援で悩んでいるため

その他

3. 支援ガイドの内容は分かりやすかったですか？（5 段階評価）

5. そう思う

4. ややそう思う

3. どちらでもない

2. ややそう思わない

1. そう思わない

4. この支援ガイドは業務に役立ちそうですか？（5 段階評価）

5. そう思う

4. ややそう思う

3. どちらでもない

2. ややそう思わない

1. そう思わない

5. 具体的に役立った部分があれば教えてください（自由記述）

6. 改善してほしい点がありますか？（自由記述）

7. 追加してほしい内容や項目はありますか？（自由記述）

8. この支援ガイドを誰かに紹介したいと思いますか？

5. そう思う

4. ややそう思う

3. どちらでもない

2. ややそう思わない

1. そう思わない

9. 8の答えの理由を教えてください。

10. 所属（複数選択可）

医療機関

障がい福祉サービス事業所

介護事業所

教育機関

民間企業

NPO・ボランティア団体

現在勤務先無し

その他

11. 職種（複数選択可）

医師

看護師

保健士

介護職

相談支援専門員

社会福祉士

精神保健福祉士

リハビリ専門職（PT・OT・ST）

手話通訳士（者）

要約筆記者

ろう者向け通訳

介助院

事務職

行政職

教育関係者

その他

発表論文

- 1) 第 61 回（公社）日本精神保健福祉士協会全国大会・第 25 回日本精神保健福祉士学会学術研究会にて発表を予定している。

引用文献

- 1) 身体障害者手帳所持者数（障害別）<https://www.nict.go.jp/info-barrierfree/relate/statistics/population1.html> 情報通信機構（2026 年 1 月 29 日最終閲覧）
- 2) 聴覚障害者外来を訪れる人たち 藤田保 聴覚障害者の心理臨床 日本評論社 1999 P99－120
- 3) 地域の支援センターでの相談事例 稲淳子 聴覚障害者のメンタルヘルスとケア 社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター 2018 P18－27
- 4) 聴覚障害者の心理・発達とその支援 河崎佳子 聴覚障害者のメンタルヘルスとケア 社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター 2018 P108－124
- 5) 令和 6 年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 依存症対策全国センター 2025
- 6) Substance Use Disorder for People with Physical and Cognitive Disabilities <https://library.samhsa.gov/sites/default/files/pep19-02-00-002.pdf> Knowledge Application Program (KAP) Substance Abuse and Mental Health Services Administration. 2019
- 7) ろう者の受診時のバリアの改善を求めて 今川竜二 季刊みみ 第 185 号 日本聴力障害新聞 2024 秋季 P37
- 8) 精神疾患の基礎知識 講義 2－4 依存症 <https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiiki/seminar/pdf/5-2-4.pdf> 国立精神・神経医療研究センター（2026 年 1 月 29 日最終閲覧）
- 9) DeafAA.org <https://sites.google.com/view/deafaa/home>（2026 年 1 月 29 日最終閲覧）